

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106738		
法人名	株式会社ピナクル		
事業所名	グループホーム ワカヤ・クラブ		
所在地	岡山市中区円山216-22		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=3370106738-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、ご利用者様お一人お一人に快適な時間・空間・暮らしを提供できるよう心がけております。ご利用者様がこれまでのそれぞれの生活の延長で生活ができるよう、ご家族様からのご支援を頂きながらケアに努めております。安心、安全に暮らして頂くために、内科、整形外科、歯科といろいろな診療科目の先生に往診に来て頂き、更に定期的に訪問看護に入っていただく事で、ご利用者様の医療面でのバックアップ体制を整えております。また、施設のロケーションについては高台にある為眺めも良く、大きな民家の改修型の施設ですので、ご利用者様には家庭的な雰囲気、しかもゆったりと過ごして頂けるものと考えております。

民家を活用している事業所は、家庭的な雰囲気の中、入居者は落ち着いてのんびりと生活を送っている。訪問看護、内科、整形外科、歯科の往診があり、医療面で家族の安心と信頼につながっている。家族からは、「行事は手作り感があふれ、温かみがあり、皆が心から楽しめる。」と評価を得ている。入居者はその日の暮らし方(畑に行く、食事の下準備、洗濯物たたみなど)を、自分でしたいことの選択ができ、満足につながるよう支援されている。二人の管理者から、「自分のレベルアップをしていき、職員が働きやすい環境作りをしていきたい。」「高齢者の生活の場として最後までこの施設で生活できて良かったと感じてもらえるように支援していきたい。」とコメントをもらうことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で策定した運営目標に基づき事業所を運営し、会議で進捗状況のモニタリングを行う事により、目標の共有に努めている。	「その人らしく、今までの生活の延長」を目標に、入居者はその日の過ごし方を自分で選択できるように支援されている。職員は利用者の状況を考慮しながら、落ち着いた生活が送れるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会と施設の行事等、情報交換を行い、施設は消防訓練やレクのボランティア・夏祭りに参加要請をさせていただいている。	地域の子供がハロウィンにお菓子を求めて事業所を訪れてくれ、楽しみのある交流の時となっている。町内会の清掃などの行事には積極的に参加している。災害時の避難場所として事業所を地域に提供している。	地域の子供との交流が行われているので、さらに関係強化を図り、子供を通して地域とつながりながら暮らし続けられる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、町内の皆様にも施設の見学を促しつつ、運営状況を報告したり入居者のご家族と交流していただく事で、認知症の理解を頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議の参加時にご家族数名がご参加下さり、普段の対応や処遇に対して、気付いたこと等についてご意見をいただきサービス向上に活かしていけるよう努めています。	家族・民生委員や地域包括支援センターが出席してくれる。入居者の状況、イベントの様子、避難訓練について報告し、話し合い、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	受診を伴う事故があれば市に事故報告を行っている。また不明な点等があれば、市の事業者指導課の担当者に相談し、アドバイスを頂くよう努めています。	地域包括支援センターに運営推進会議の案内をし、参加してもらっている。コロナウイルス対策や運営に関する会議の在り方について相談し、助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、外部からの安全確保の観点から行っているが、利用者の居室については施錠は行っていない。また身体拘束についての研修を行い、職員の意識を常に確認するよう努めている。	身体拘束の具体的な行為に関する研修を実施し、ケアに活かしている。四本柵は使用せず、クッションを利用したり、センサーを設置したりして安全確保に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同テーマの研修を半年に1回開催し、マニュアルの再確認を行い、常時指導している事により、高齢者の虐待を防止できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されているご利用者様がおられ、職員には成年後見人制度の概要の理解を求め、当該利用者の活用されている成年後見人制度について具体的な理解できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様には施設の雰囲気、ご家族様には施設の雰囲気だけではなく、これから具体的ににかかるコストの説明及び試算を行った上で、その他入居後の協力体制等について等細かくご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に家族会を行い、ご利用者様、ご家族様に前回の家族会から起こった事故・苦情等の内容を提示し、ご意見ご要望を頂き、事業所運営に反映させる様努めている。	入居契約時に意見を聞く機会を設けている。家族会にて事業所の状況を説明し、改善すべき点を話し合い、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談等も実施するとともに、随時スタッフともコミュニケーションをとりながら問題の解決に努めている。	管理者と職員間は何でも話し合える関係である。随時意見を出し合い、提案を反映させている。同系列の事業所に出張した時、その運営の取り組みを学び、事業所につながる点を参考にして、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規スタッフの本採用時や有契約社員の更新時期には、本人とユニットリーダー、ホーム長が会社独自の取り組み評価シートを記入し、面談しながら目標や問題点について共有できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については情報を提供し受講を促したり、事業所研修を毎月テーマを決めて実施している。最近では京都のグループ事業所に手伝いを兼ねて行ってもらい、自事業所との違いを肌で感じられる状況も作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所研修では一部同業者にも門戸を開放し研修を受講頂くことにより、当施設運営への理解を得、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人の訴え、ご家族様からの入居後の継続的なヒアリングを行うことによって、本人、家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、ご利用者様が当施設に入居されることによって解決される問題点の説明だけではなく、ご家族の要望、施設側からの要望をお互い叶えていくことで、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望があれば、ご利用者様がもともと利用されていた美容室等の継続利用を頂いたりしています。また施設の外出だけでは不十分と判断される方には個別に散歩をしたり、ご家族様に外出や外食にご一緒頂く等の協力を頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯のお手伝い、畑や花壇の管理等、できるご利用者様には役割を持ってもらって、共同で暮らしていることを意識してもらえる様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の距離が入所されてからの方が近くなるよう、ご家族様にもレクへの参加案内をしたりし、本人様との接触が増える様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	岡山市内の観光スポットを一緒に散策したりして、ご利用者様が過ごされてきた地域との関係が途切れない様に努めている。	護国神社へ初詣に家族と出掛け、正月行事を味わえるよう支援している。定期的に開催する家族会が面会の機会となり、家族関係継続の支援となっている。携帯電話にて、家族と連絡できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前10時、午後3時とティータイムを設け、ご利用者様同士が同じ食卓でお茶を頂きながら談笑でき関わりあえる様、心がけています。その他、同じ役割を助け合いながら行う事で、自然と会話が生まれるように誘導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のご家族様へも、施設のイベントのご案内を届けたりし、関係を継続するよう努めています。転居された利用者様であれば、転居先からの情報提供依頼等へも対応するよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出のレクリエーションでは行き先や食べたいものを聞いたり、ご利用者様の誕生日には、バースデイケーキやご本人希望のプレゼントをご用意する等しています。	本人に暮らし方の希望を聞いている。様子観察をして意向をくみ取り、事業所での生活が平穏で有意義なものとなるような目標を立てている。家族からの情報や職員の意見を勘案して、意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際、それまでの利用者様の人生や暮らしについてご家族からお聞きし、その情報を活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にご利用者様のできること、できないことをモニタリングし、できないことを手助けし、できることを維持して頂ける様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の完成には、ご家族様にアンケートに回答いただく等ご意見を伺い、一方的なサービス提供にならない様努めています。	月1回開催するケア会議にて、入居者全員の進捗状況を確認し、検討をしている。職員や家族の意見、介護記録を勘案して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子は、申し送りで伝えられ、ご利用者様1人1人の介護記録に記入され、特記事項については定期的に関催されるユニット会議で検討されるようになっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の了承を頂きながら、一見危険に思える家事のお手伝いや園芸のお手伝い、またその準備に係る買い物等にご利用者様に参加頂く、と言う形のサービス企画を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーでの買い物に、ご利用者様と一緒に頂いたり、地域の散髪屋さん定期的にカットして頂く形で、地域資源の活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週施設に往診に来て頂き、24時間の相談体制も取って頂いております。また年に1度の健康診断やインフルエンザ予防接種等もご協力頂いております。	内科医、歯科、整形外科医の受診ができるよう体制を整えている。ウイルス感染に備え、面会の自粛、外部への接触を少なくするなど対策を講じている。週1回の訪問看護にて健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員がいない状況だが、訪問看護が週1度訪問下さり、健康チェック・その他相談を請け負って下さっている。なお、24時間の連絡体制もっており、常時相談が出来る状況となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際、病院へのカンファレンスへの出席や、普通のお見舞いをしながら、ご利用者様本人の様子確認、病院相談員とのコミュニケーションに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の医療的、介護的な岐路で、かかりつけ医、ご家族様も交えたカンファレンスを行い、それぞれの岐路での方向性を関係者で決定し、その後の支援をするようルール化されている。	入居契約時に重度化・終末期に関する説明をし、方針の理解を図っている。医療行為が必要となれば、事業所での支援は難しいと伝えている。自然な状態での看取りは可能であり、終の棲家として支援をしている。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護スタッフへ依頼し、ケーススタディや応急手当等を随時学習できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設内での避難訓練を実施するとともに、運営推進会議で災害時の避難場所として活用いただけることを案内する等、地域との協力体制の強化に努めている。	火災想定での避難訓練を実施している。豪雨による災害の避難場所は事業所の屋上ベランダとし、水害時の地域の人のための避難所として提供している。災害時のための備蓄をしている。	災害の規模が年々大きくなり、何が起きるか判らない状態となっている。予防措置を講じ、さらに必要物を備蓄される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目線はご利用者様よりも低くを念頭に置き、失礼の無いように言葉掛けを行うよう努めております。トイレなどの声かけには特に注意し、耳元で小声で伝える等工夫をしています。	言葉かけに注意をし、特にトイレ誘導時の声掛けは他の人に聞こえないよう工夫している。目線を合わせるか、低い位置で声掛けをするよう注意している。衣服の選択時、本人に確認するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、着たい服、排泄のタイミング等、できるだけご本人様に確認を頂きながら、支援を進めていく様心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前・午後の体操程度しかプログラムは決まっておらず、基本的にご本人の時間を大切にしています。例えば朝食は、起きた方から提供できるよう配慮に努めているし、起きるタイミングもご本人にお任せしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が外出やお散歩の際は、お手持ちの服をご自身で選んで着て頂ける様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食事の準備、配膳、下膳、後片付けをご協力頂き、共同生活を感じて頂けるよう心がけています。味についても、皆さんが好みであろう味付けになるよう努めています。	業者作成のメニューで栄養のバランスが取れている。庭で育てた野菜を食材に使い楽しみとなっている。食事の下準備、後片づけをして、役割獲得の支援をしている。誕生日用ケーキの購入は利用者から喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや塩分計算をなされた配食業者から食材を仕入れ、食事を提供しています。量についても、全員同じではなく、希望や状況を等を配慮した上で調節を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のご利用者様自身での口腔ケア、介護職員の介添えによる口腔ケアだけでなく、月2回程度だが歯科医師や歯科衛生士が口腔内の確認・指導を頂けるような仕組みになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のできること、できないことの分析をもとに、ご利用者様がご自身の力で安全に継続して排泄が行なえる様、心がけております。	現在、要介護5の入居者のみオシメを使用している。「お手洗い」と表示し、自立支援を促し、自分の力でトイレに行ける自覚が持てるよう支援している。排便の失敗がないよう注意し、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談をしながら、ご利用者様の排便について適度なコントロールを行い、便秘や排便の失敗をできるだけ防ぐ様努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日おきに入浴日を設定しておりますが、ご自身の体調、希望を聞きながら柔軟に対応させて頂いております。中には順番や湯の温度等にこだわりを持たれている方もおられますので、そういった事にも気を配っております。	本人の意向を確認して誘導している。本人に風呂の予定表を渡し、予め知らせて拒否に対応している。独りの時間として過ごせたり、職員と思い出話ができたりと、それぞれに合わせた時間となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の離床と活動を促すとともに、かかりつけ医と相談をしながら、日中の不安除去、昼夜逆転の回避、夜間のスムーズな就寝を支援しています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で頂く「お薬リスト」を管理し、薬剤の把握に努めるだけでなく、服薬介助のマニュアルを運用することで、ご利用者様の誤薬がなくなる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみなど、ご利用者様ができることをお手伝い頂き、ご自身の役割を感じ続けながら生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のお買物、近所のお散歩やベランダでの外気浴等にご利用者様をお誘いし、一緒にお出かけ頂ける様心がけております。初詣などは年行事として、大変好評をいただいております。	事業所周りは坂が多く、転倒のリスクが高いため、散歩に出かける機会は少ないが、2階のベランダに出て気分転換を兼ねて日向ぼっこをしている。年行事として初詣や桜の花見に出かけ、外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様本人が管理できる方には、予測されるトラブル等についてご家族様に説明した上で、ご利用者様にお金を持って使って頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方も数名おられますし、電話できる方にはご自分で電話をかけて頂いたり、できない方には、ご家族様からご利用者様宛てに電話をかけて頂いたりし、ご利用者様とご家族様のコミュニケーションを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に協力を頂きながら、居室だけでなく、リビング、廊下等の共用スペースの掃除や換気を行い、ご利用者様が気持ちよく過ごして頂ける様心がけています。	廊下の壁に内裏雛の飾りを貼り、季節を感じてもらっている。気の合う者同士が仲良く話し合えるよう配席に配慮をしている。リビングは家庭的な雰囲気作りをして、穏やかに生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルだけではなく、各フロアともソファスペースが2～3箇所設けてあり、ご利用者様がお好きな場所で、お好きな方と過ごして頂けるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には表札を掲示して、自分の部屋が分かるようにしています。そしてご家族と相談の上、ご本人の使い慣れた物や大切にしている者を可能な限りお持ち込み頂くようにしています。入居時のレイアウトも入居前の生活に近づけられるように配慮しています。	職員が思いを込めて造花でアレンジした表札を作り、入り口に掲示して他室と区別している。仏壇、遺影、テレビ、敬老会の感謝状、カレンダーを配置し、自分の部屋づくりをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の居室にはひらがなで表札を設けたり、トイレにも表札を設けたりして、ご利用者様が施設内での移動で混乱のない様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106738		
法人名	株式会社ピナクル		
事業所名	グループホーム ワカヤ・クラブ		
所在地	岡山市中区円山216-22		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、ご利用者様お一人お一人に快適な時間・空間・暮らしを提供できるよう心がけております。ご利用者様がこれまでのそれぞれの生活の延長で生活ができるよう、ご家族様からのご支援を頂きながらケアに努めております。安心、安全に暮らして頂くために、内科、整形外科、歯科といろいろな診療科目の先生に往診に来て頂き、更に定期的に訪問看護に入っただく事で、ご利用者様の医療面でのバックアップ体制を整えております。また、施設のロケーションについては高台にある為眺めも良く、大きな民家の改修型の施設ですので、ご利用者様には家庭的な雰囲気、しかもゆったりと過ごして頂けるものと考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=3370106738-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年3月5日		

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で策定した運営目標に基づき事業所を運営し、会議で進捗状況のモニタリングを行う事により、目標の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で町内会と施設の行事等、情報交換を行い、施設は消防訓練やレクのボランティア・夏祭りに参加要請をさせていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、町内の皆様にも施設の見学を促しつつ、運営状況を報告したり入居者のご家族と交流していただく事で、認知症の理解を頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議の参加時にご家族数名がご参加下さり、普段の対応や処遇に対して、気付いたこと等についてご意見をいただきサービス向上に活かしていけるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	受診を伴う事故があれば市に事故報告を行っている。また不明な点等があれば、市の事業者指導課の担当者に相談し、アドバイスを頂くよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、外部からの安全確保の観点から行っているが、利用者の居室については施錠は行っていない。また身体拘束についての研修を行い、職員の意識を常に確認するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同テーマの研修を半年に1回開催し、マニュアルの再確認を行い、常時指導している事により、高齢者の虐待を防止できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されているご利用者様がおられ、職員には成年後見人制度の概要の理解を求め、当該利用者の活用されている成年後見人制度について具体的な理解できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様には施設の雰囲気、ご家族様には施設の雰囲気だけではなく、これから具体的ににかかるコストの説明及び試算を行った上で、その他入居後の協力体制等について等細かくご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に家族会を行い、ご利用者様、ご家族様に前回の家族会から起こった事故・苦情等の内容を提示し、ご意見ご要望を頂き、事業所運営に反映させる様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談等も実施するとともに、随時スタッフともコミュニケーションをとりながら問題の解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規スタッフの本採用時や有契約社員の更新時期には、本人とユニットリーダー、ホーム長が会社独自の取組み評価シートを記入し、面談しながら目標や問題点について共有できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については情報を提供し受講を促したり、事業所研修を毎月テーマを決めて実施している。最近では京都のグループ事業所に手伝いを兼ねて行ってもらい、自事業所との違いを肌で感じられる状況も作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所研修では一部同業者にも門戸を開放し研修を受講頂くことにより、当施設運営への理解を得、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人の訴え、ご家族様からの入居後の継続的なヒアリングを行うことによって、本人、家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、ご利用者様が当施設に入居されることによって解決される問題点の説明だけではなく、ご家族の要望、施設側からの要望をお互い叶えていくことで、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望があれば、ご利用者様がもともと利用されていた美容室等の継続利用を頂いたりしています。また施設の外出だけでは不十分と判断される方には個別に散歩をしたり、ご家族様に外出や外食にご一緒頂く等の協力を頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯のお手伝い、畑や花壇の管理等、できるご利用者様には役割を持ってもらって、共同で暮らしていることを意識してもらえる様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の距離が入所されてからの方が近くなるよう、ご家族様にもレクへの参加案内をしたりし、本人様との接触が増える様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	岡山市内の観光スポットを一緒に散策したりして、ご利用者様が過ごされてきた地域との関係が途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前10時、午後3時とティータイムを設け、ご利用者様同士が同じ食卓でお茶を頂きながら談笑でき関わりあえる様、心がけています。その他、同じ役割を助け合いながら行う事で、自然と会話が生まれるように誘導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のご家族様へも、施設のイベントのご案内を届けたりし、関係を継続するよう努めています。転居された利用者様であれば、転居先からの情報提供依頼等へも対応するよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出のレクリエーションでは行き先や食べたいものを聞いたり、ご利用者様の誕生日には、バースデーケーキやご本人希望のプレゼントをご用意する等しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際、それまでの利用者様の人生や暮らしについてご家族からお聞きし、その情報を活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にご利用者様のできること、できないことをモニタリングし、できないことを手助けし、できることを維持して頂ける様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の完成には、ご家族様にアンケートに回答いただく等ご意見を伺い、一方的なサービス提供にならない様努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子は、申し送りで伝えられ、ご利用者様1人1人の介護記録に記入され、特記事項については定期的に関催されるユニット会議で検討されるようになっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の了承を頂きながら、一見危険に思える家事のお手伝いや園芸のお手伝い、またその準備に係る買い物等にご利用者様に参加頂く、と言う形のサービス企画を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーでの買い物に、ご利用者様と一緒に頂いたり、地域の散髪屋さん定期的にカットして頂く形で、地域資源の活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週施設に往診に来て頂き、24時間の相談体制も取って頂いております。また年に1度の健康診断やインフルエンザ予防接種等もご協力頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員がいない状況だが、訪問看護が週1度訪問下さり、健康チェック・その他相談を請け負って下さっている。なお、24時間の連絡体制もっており、常時相談が出来る状況となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、病院へのカンファレンスへの出席や、普通のお見舞いをしながら、ご利用者様本人の様子確認、病院相談員とのコミュニケーションに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の医療的、介護的な岐路で、かかりつけ医、ご家族様も交えたカンファレンスを行い、それぞれの岐路での方向性を関係者で決定し、その後の支援をするようルール化されている。		
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護スタッフへ依頼し、ケーススタディや応急手当等を随時学習できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設内での避難訓練を実施するとともに、運営推進会議で災害時の避難場所として活用いただけることを案内する等、地域との協力体制の強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目線はご利用者様よりも低くを念頭に置き、失礼の無いように言葉掛けを行うよう努めております。トイレなどの声かけには特に注意し、耳元で小声で伝える等工夫をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、着たい服、排泄のタイミング等、できるだけご本人様に確認を頂きながら、支援を進めていく様心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前・午後の体操程度しかプログラムは決まっておらず、基本的にご本人の時間を大切にしています。例えば朝食は、起きた方から提供できるよう配慮に努めているし、起きるタイミングもご本人にお任せしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が外出やお散歩の際は、お手持ちの服をご自身で選んで着て頂ける様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食事の準備、配膳、下膳、後片付けをご協力頂き、共同生活を感じて頂けるよう心がけています。味についても、皆さんが好みであろう味付けになるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや塩分計算をなされた配食業者から食材を仕入れ、食事を提供しています。量についても、全員同じではなく、希望や状況を等を配慮した上で調節を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のご利用者様自身での口腔ケア、介護職員の介添えによる口腔ケアだけでなく、月2回程度だが歯科医師や歯科衛生士が口腔内の確認・指導を頂けるような仕組みになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のできること、できないことの分析をもとに、ご利用者様がご自身の力で安全に継続して排泄が行なえる様、心がけております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談をしながら、ご利用者様の排便について適度なコントロールを行い、便秘や排便の失敗をできるだけ防ぐ様努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日おきに入浴日を設定しておりますが、ご自身の体調、希望を聞きながら柔軟に対応させて頂いております。 中には順番や湯の温度等にこだわりを持たれている方もおられますので、そういった事にも気を配っております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の離床と活動を促すとともに、かかりつけ医と相談をしながら、日中の不安除去、昼夜逆転の回避、夜間のスムーズな就寝を支援しています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で頂く「お薬リスト」を管理し、薬剤の把握に努めるだけでなく、服薬介助のマニュアルを運用することで、ご利用者様の誤薬がなくなる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみなど、ご利用者様ができることをお手伝い頂き、ご自身の役割を感じ続けながら生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のお買物、近所のお散歩やベランダでの外気浴等にご利用者様をお誘いし、一緒にお出かけ頂ける様心がけております。 初詣などは年行事として、大変好評をいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様本人が管理できる方には、予測されるトラブル等についてご家族様に説明した上で、ご利用者様にお金を持って使って頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方も数名おられますし、電話できる方にはご自分で電話をかけて頂いたり、できない方には、ご家族様からご利用者様宛てに電話をかけて頂いたりし、ご利用者様とご家族様のコミュニケーションを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に協力を頂きながら、居室だけでなく、リビング、廊下等の共用スペースの掃除や換気を行い、ご利用者様が気持ちよく過ごして頂ける様心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルだけではなく、各フロアともソファスペースが2~3箇所設けてあり、ご利用者様がお好きな場所で、お好きな方と過ごして頂けるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には表札を掲示して、自分の部屋が分かるようにしています。そしてご家族と相談の上、ご本人の使い慣れた物や大切にしている者を可能な限りお持ち込み頂くようにしています。入居時のレイアウトも入居前の生活に近づけられるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の居室にはひらがなで表札を設けたり、トイレにも表札を設けたりして、ご利用者様が施設内での移動で混乱のない様に工夫している。		